

カキ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	灰 色 か び 病	落 葉 病	黒 星 病	炭 疽 病	う ど ん こ 病	黒 点 病	す す 点 病	(ゆ 込 込 防 止 進)
イオウFL	無機	M2		-	-					◎			
クムラス顆水	無機	M2		-	-					◎			
石灰硫黄合剤	無機	M2		-	-			◎		◎			
フルピカFL	AP	9		14	5	◎				◎			
アンビルFL	DMI	3		7	3					◎			
インダーFL	DMI	3		7	2		◎		◎	◎			
オンリーワンFL	DMI	3		1	3	◎	◎		◎	◎			
サブロール乳	DMI	3		14	4					◎			
スコア顆水	DMI	3		1	3		◎		◎	◎			
トリフミン水	DMI	3		1	3					◎	◎		
ルビゲン水	DMI	3		21	3					◎			
アミスター10FL	Q○I	11		7	3		◎		◎	◎	◎	◎	
スクレアFL	Q○I	11		1	3	◎	◎		◎	◎			
ストロビーDF	Q○I	11		14	3	◎	◎		◎	◎			
ファンタジスタ顆水	Q○I	11		7	3	◎	◎		◎	◎			
フリントFL25	Q○I	11		1	3		◎		◎	◎			
アフエットFL	アミド	7		1	3		◎						
フルーツセイバーFL	アミド	7		1	3	◎	◎		◎	◎		◎	
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		1	6		◎		◎	◎		◎	
トップジンMペースト	ベンゾイミダゾール	1		*c	3								◎
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		1	6		◎		◎	◎		◎	
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3		45	2		◎	◎	◎		◎		
チオノックFL	有機硫黄	M3		30	2		◎		◎	◎			
トレノックスFL	有機硫黄	M3		30	2		◎		◎	◎			
ペンコゼブ水	有機硫黄	M3		45	2		◎		◎				
オキシンドー水80	有機銅	M1		14	5		◎		◎	◎			
キノンドーFL	有機銅	M1		14	5		◎		◎	◎			
ドキリンFL	有機銅	M1		14	5		◎		◎	◎			
バッチレート塗	有機銅	M1		*d	3								◎
オーソサイド水80	他	M4		7	5		◎		◎			◎	

カ

キ

カキ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	灰 色 か び 病	落 葉 病	黒 星 病	炭 疽 病	う ど ん こ 病	黒 点 病	すす 点 病	(ゆ 込 防 止) 進
カナメFL	他	7	劇	1	3					◎			
ケンジャFL	他	7		14	3	◎	◎			◎			
ストライド顆水	他	M11		14	4		◎		◎			◎	
デランFL	他	M9	劇	90	5		◎		◎	◎			
パスポート顆水	他	M5		30	3		◎		◎	◎			
バレード15FL	他	7		1	2		◎			◎			
フロンサイドSC	他	29		45	1	◎	◎		◎				
ベルコート水	他	M7		14	3	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
ナティールボFL	DMI・QoI	3・ 11		1	3	◎	◎		◎	◎			
テーク水	DMI・有機硫 黄	3・ M3		45	2		◎		◎	◎			
ナリアWDG	QoI・アミト [*]	11・ 7		1	2		◎		◎	◎			
ルミライト水	ベンゾイミダゾール・ DMI	1・ 3		1	3		◎			◎			
ゲッター水	ベンゾイミダゾール・ ベンゾイミダゾール	10・ 1		7	3	◎	◎		◎				
ニマイバー水	ベンゾイミダゾール・ ベンゾイミダゾール	10・ 1		1	3	◎	◎		◎				
ラビライト水	ベンゾイミダゾー ル・有機硫黄	1・ M3		45	2		◎		◎	◎			
ブローダ水	有機硫黄・DM I	M3・ 3		45	2		◎		◎	◎			
ホームイコート水	有機硫黄・ベン ゾイミダゾール	M3・ 1		*a	1				◎	◎			
ポリベリン水	他・抗生物質	M7・ 19		30	3	◎			◎	◎			
ピオネクトFL	他・有機銅	-・ M1		14	5		◎		◎	◎		◎	
ダイパワー水	他・他	M7・ M4		14	3					◎			

*a:休眠期

*c:剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

*d:剪定時及び病患部削り取り直後

力

キ

カキ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	アザミウマ類	カキクダアザミウマ類	チャノキイロアザミウマ類	カイノヒメヨコシバ類	カイガラムシ類	カメムシ類	カキノヘタムシ類	カキノホタムシ類	フタモンマダラメイガ類	ハマキムシ類	イラガ類	スカシバ類	ヒメコスカシバ類	ケムシ類	アメリカシロヒトリ類	ミノガ類	カミキリムシ類	カキサビダニ類	ハダニ類
バシレックス水	B T	11A	*b	-											◎								
ヘタムシコン	フェロモン	-	*c	-									◎										
ハーベストオイル	天然物由来		*a	-					◎														
アタブロンSC	I GR	15	14	3	◎					◎				◎									
アブロード水	I GR	16	*g	2				幼															
カスケード乳	I GR	15	14	2	キ					◎			◎				◎	◎					
ノーモルト乳	I GR	15	30	3						◎				◎									
オリオン水40	カバメート	1A	劇	21	1	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎				◎	◎				
サンマイルト水	殺ダニ	21A	劇	14	2		◎	◎														◎	◎
スターマイルトFL	殺ダニ	25A		1	1																		◎
ダニコングFL	殺ダニ	25B		1	1																		◎
ダニサラバFL	殺ダニ	25A		1	2																		◎
ダニトロンFL	殺ダニ	21A		7	1																		◎
ニッゾラン水	殺ダニ	10A		7	2																		◎
ピラニカ水	殺ダニ	21A	劇	21	1																		◎◎
マイルトコーネFL	殺ダニ	20D		7	1																		◎
モベントFL	殺ダニ	23		7	3	◎	◎	◎	◎														
サムコルFL10	ジアミト	28		1	3					◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
テッパン液	ジアミト	28		1	2	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
フェニックスFL	ジアミト	28		7	2					◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
ヨーバルFL	ジアミト	28		1	2					◎													
ディアナWDG	スチノシン	5		1	2	◎	◎	◎	◎	◎			◎										
アクタラ顆溶	ネオコチノイト	4A		3	3	◎	◎	◎	◎	◎		◎											
アドマイヤー顆水	ネオコチノイト	4A	劇	*f	3	◎	◎	◎	◎	◎		◎											
アルバリン顆溶	ネオコチノイト	4A		1	3	◎	◎	◎	◎	◎		◎											
スタークル顆溶	ネオコチノイト	4A		*e	1					◎													
ベストガード溶	ネオコチノイト	4A		7	3			◎															
ダントツ溶	ネオコチノイト	4A		7	3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
モスピラン顆溶	ネオコチノイト	4A	劇	1	3	◎	◎	◎	◎	◎													
バダンSG溶	ネオコチノイト	14	劇	45	4			◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
MR. ジョーカー水	ビレスロイト	3A		14	2	◎	◎			◎	◎												
アーデントFL	ビレスロイト	3A		1	3	◎	◎	◎		◎	◎												◎
アグロスリン水	ビレスロイト	3A	劇	1	3	◎	◎			◎	◎												
アディオン乳	ビレスロイト	3A		7	5	◎	◎			◎	◎							◎	◎				

カ

キ

カキ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒害性	使用時期(回数)	アザミウマ類	カキクダアザミウマ類	チャノキイロアザミウマ類	カイガラムシ類	カメムシ類	カキノヘタムシ類	カキノホムシ類	フタモンマダラメイガ類	ハマキムシ類	イラガ類	スカタシバ類	ヒメコスカシバ類	ケムシ類	アメリカシロヒトリ類	ミノガ類	カミキリムシ類	カキサビダニ類	ハダニ類	
スカウトFL	ビレスロイト*	3A	劇	7 5	◎	◎	◎	◎	◎														
テルスター水	ビレスロイト*	3A		14 2	◎	◎	◎	◎															◎
テルスターFL	ビレスロイト*	3A	劇	3 2		◎	◎	◎															
トレボン水	ビレスロイト*	3A		30 3	◎	◎		◎	◎														
バイスロイドEW	ビレスロイト*	3A	劇	14 3	◎	◎			◎														
ベニカミキリシエアーズル ロビンフッド	ビレスロイト*	3A		1 5											◎	◎						◎	
マブリックEW	ビレスロイト*	3A	劇	30 2			◎	◎	◎					◎									◎
マブリック水20	ビレスロイト*	3A	劇	30 2			◎	◎	◎					◎									◎
ロディー水	ビレスロイト*	3A	劇	7 3	◎	◎		◎	◎					◎									
キラップFL	フェニルピラゾール	2B		7 2	◎	◎	◎		◎														
エルサン水	有機リン	1B		30 4	◎	◎	◎	◎	◎														
オルトラン水	有機リン	1B		45 2	◎	◎	◎	◎	◎														
ガットサイドS乳	有機リン	1B		*d 2																			
ジェイエース溶	有機リン	1B		45 2	◎	◎			◎														
スプラサイド水	有機リン	1B	劇	30 3	◎	◎	◎	◎	◎														
スミチオン乳*	有機リン	1B		30 3				◎	◎	◎	◎			◎	◎								◎ 若
ダイアジン水34	有機リン	1B	劇	45 4					◎	◎				◎									◎
マラソン乳	有機リン	1B		30 4				◎						◎	◎								
ウララDF	他	29		14 2			◎																
コテツFL	他	13	劇	14 2	◎	◎	◎			◎				◎									◎ ナ
コルト顆水	他	9B		1 3			◎	◎															
キックオフ顆水	ジアミト・ネオニコチノイド*	28・4A		1 3	◎	◎	◎	◎	◎	◎													◎ 若

- *商品によって適用害虫が異なる。
- *a: 発芽前
- *b: 発生初期(但し収穫前日まで)
- *c: 成虫発生初期～終期
- *d: 産卵期～幼虫食入初期(但し収穫45日前まで)
- *e: 発芽前～発芽期
- *f: 収穫7日前まで (但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)
- *g: 開花期まで(但し収穫45日前まで)
- *h: 開花期まで

- イ: イラガ
- オ: オオワタコナカイガラムシ及びフジコナカイガラムシ
- カ: カキノキマダラメイガ
- キ: カキクダアザミウマ
- ク: コナカイガラムシ類
- ク: チャミノガ
- ナ: ナミハダニ及びカンザワハダニ
- ヒ: ヒロヘリアオイラガ
- フ: フジコナカイガラムシ
- ホ: オオワタコナカイガラムシ若齢幼虫
- 幼: 幼虫
- 若: 若齢幼虫

カ
キ

カキ（果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
落葉病	休眠期	・落葉を集めて処分する。	落葉病には、角斑落葉病と円星落葉病がある。 円星落葉病の発生が多いので6月上旬～7月上旬の散布が重要である。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
	6月上旬～7月上旬・9月上旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 フロンサイドSC (FL) 2000倍 ベンレート水和剤● 2000～3000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤● 3000～4000倍 ラビライト水和剤● 500～800倍	
黒星病		1. 窒素肥料は元肥を主体にし、過用しない。 2. 枝がこみあわないよう間伐する。 3. 病枝は切り取り、処分する。 4. 園内は排水を良好にする。	春と秋に雨が続きと多発しやすい。 次郎、禅寺丸は発生しやすい。
	発芽前（3月下旬）	・次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤 100倍	
	生育期	・次の薬剤を散布する。 ベルコート水和剤 1000～1500倍	
炭疽病		1. 窒素肥料は元肥を主体にし、過用しない。 2. 枝がこみあわないよう間伐する。 3. 病枝は切り取り、処分する。 4. 園内は排水を良好にする。 5. 剪定枝や落ち葉は翌年の伝染源となるので園内に放置しない。	春と秋に雨が続きと多発しやすい。 富有は発生しやすい。 ●DMI剤は連用しない。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 キノンドーフロアブル 800～1000倍 スコア顆粒水和剤● 3000倍 ベルコート水和剤 1000～1500倍	
うどんこ病	発芽前	1. 発病園では早めに落葉を集めて処分する。 2. 次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤 100倍	●DMI剤は連用しない。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル 1000倍 ベルコート水和剤 1000～1500倍 トリフミン水和剤● 2000～3000倍	

カキ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
カキクダアザミウマ	展葉期および6月頃	<p>1. 光反射シルバーマルチなどの設置により成虫の飛来を回避する。</p> <p>2. 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクタラ顆粒水溶剤# 2000倍 アディオン乳剤 2000倍 オリオン水和剤40# 1000倍 コテツフロアブル# 2000～4000倍 スプラサイド水和剤 1500倍</p>	<p>加害葉は捲葉となるので発生に注意する。幼虫や新成虫が幼果を加害する。</p> <p>#アザミウマ類での登録</p>
チャノキイロアザミウマ	<p>冬期</p> <p>6月上旬～7月上旬</p>	<p>・粗皮を削り、集めて焼却など処分し成虫を防除する。</p> <p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクタラ顆粒水溶剤# 2000倍 アディオン乳剤 2000～3000倍 アドマイヤー顆粒水和剤#a 5000～10000倍 ウララDF 2000倍 コテツフロアブル# 2000～4000倍 パダンSG水溶剤 1500倍 ロディー水和剤 1500倍</p>	<p>#アザミウマ類での登録</p> <p>*a露地栽培については発芽期から開花期を除く</p>
フジコナカイガラムシ	<p>休眠期</p> <p>6月下旬(幼虫ふ化期)・7～8月・9月</p>	<p>・粗皮削りやバンド誘殺を行う。</p> <p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>オリオン水和剤40# 1000倍 スミチオン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤# 2000～4000倍</p>	<p>年3回発生</p> <p>卵のう形成後は幼虫のふ化を待つて薬剤散布をする。</p> <p>#カイガラムシ類での登録</p>
ツノロウムシ	<p>剪定時</p> <p>7月上旬～8月上旬</p>	<p>・剪定時に除去する。</p> <p>・幼虫時に、次の薬剤を散布する。</p> <p>スプラサイド水和剤# 1500倍</p>	<p>年1回発生</p> <p>#カイガラムシ類での登録</p>

カ

キ

カキ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
カメムシ類	7～9月	<p>1. 防虫網の設置により成虫の飛来を防ぐ。</p> <p>2. 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>MR. ジョーカー水和剤 2000倍 アクタラ顆粒水溶剤 2000倍 アディオン乳剤 2000～3000倍 アドマイヤー顆粒水和剤*_a 5000～10000倍 スミチオン乳剤 1000倍 テルスターフロアブル 3000～6000倍 ロディー水和剤 1500倍</p>	<p>7月頃より収穫期まで加害するが、発生量や飛来時期の年次変動が大きい。園内への飛来状況を確認する。</p> <p>*_a露地栽培については発芽期から開花期を除く</p>
カキノヘタムシガ	12～2月(休眠期)	<p>・主幹の粗皮削りやバンド誘殺を行う。</p>	年2回発生
	6月下旬・7月下旬～8月上旬	<p>・次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクタラ顆粒水溶剤 2000倍 コテツフロアブル 2000～4000倍 スミチオン乳剤 1000倍 ノーモルト乳剤 1000～2000倍 バシレックス水和剤 1000倍 パダンSG水溶剤 1500～3000倍 ヨーバルフロアブル 5000～10000倍 ロディー水和剤 1500倍</p>	
イラガ類	冬期	<p>・枝や幹に作られた繭をつぶす。</p>	<p>土中に繭を作る種もある。</p> <p>#イラガでの登録</p>
	6月上旬～8月上旬(幼虫発生期)	<p>・幼虫の発生を見たら、次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>スミチオン乳剤 1000倍 テッパン液剤 2000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 バシレックス水和剤 1000倍 パダンSG水溶剤# 1500倍 マブリック水和剤²⁰ 2000～4000倍</p>	
アメリカシロヒトリ	5月下旬～6月上旬・8月中旬～9月上旬(幼虫発生期)	<p>1. 孵化直後は幼虫が集団でいるので、早期発見に努めこれを捕殺する。</p> <p>2. 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>スミチオン乳剤 1000倍 ダイアジノン水和剤³⁴ 1000倍</p>	<p>低木の根元などで蛹になる。</p> <p>巣網を離れて活動を始めると薬剤も効きにくくなる。</p>

カ

キ